

養護老人ホーム朝海荘（新上五島町）

事業所での課題認識

■導入の目的と導入前の状況

ご利用者の多様化・重度化が進み、島内での人材確保も年々難しくなる中で、「島外を含めた多様な人材の獲得」を目指すことにしました。モデル事業開始前には介護助手を2名ほど雇用できていましたが、業務切り分けが不十分で活用しきれていなかったり、2名ではすべての業務を回せなかったりと、うまく導入しきれていない状況にありました。

■プロジェクトを進める上での課題

施設で独自に業務切り分けをしていましたが、業務分類や時間配分が大まかなため、活用しにくいものとなっており、改めて業務を整理する必要がありました。また、島内に介護職に関心を持つ人が少ないことも大きな課題でした。特に島外の移住希望者にアプローチするために、朝海荘近辺での暮らしの魅力を伝えるチラシの作成やオンラインの活用について検討する必要がありました。

実施内容・導入効果

まず、施設の間接業務を「施設整備」「食事介助」「入浴介助」「排泄介助」「見守り」といった場面に分け、1時間刻みで業務を整理しました。介護助手の求人情報を細かく設定することも検討しましたが、なかなか施設の雰囲気とすでに働く介護助手さんの存在を活かせるよう、間接業務の明確化までに留め、雇用前後の面談やOJTでカバーすることにしました。

また、「今いるスタッフと施設の雰囲気」「近隣で暮らす魅力」などを伝えるためには、朝海荘で働くスタッフとの接点づくりが大切になると考えました。そこで、移住希望者をターゲットの軸にしてペルソナ（「ペルソナ」については8ページに記載）を設定し、山と海に囲まれた朝海荘で実現できる「多様で自由な働き方やライフスタイル」が伝わるよう、施設スタッフから地域のことを聞き取りながら、移住者目線で「朝海荘で働くPRポイント」を絞り込んでいきました。一方で、「移住者向けホームページを活用したオンラインプロモーション」を実施したり、Uターン者も多いという地域の特徴から、Uターン世代の親を通じて情報が届くよう、「近隣世帯に求人チラシの配布」を行ったりと、多様な経路でのアプローチを試みることにしました。

■モデル事業実施内容

- ①現状課題の深掘り
- ②業務分析による間接業務の整理
- ③県外の人に向けたオンラインでのプロモーション策の検討
- ④求人チラシ、広報素材の制作

■施設担当者の声

- ・業務を振り返り、煩雑になる時間帯などを具体的に共有できるようになりました。
- ・働き方と暮らし方を合わせたPRに取り組みました。届けたい相手を絞ることは、施設と地域がもっている強みを明確に伝える上で重要だと感じました。

■モデル施設の概要

- 特定施設入居者生活介護
- 職員数 38名
- 利用者数 25名
- 同法人内では特別養護老人ホームに加えて、障害者支援施設、障害者のグループホーム、保育園なども運営されている